

■ 思い込みが良くも悪くも明日を作る

修正： 2025.03.01

投稿： 2025.03.01



● 思い込みが良くも悪くも明日を作る①

「人体切断機」

それは、畳にして一畳ほどのサイズで、
ベッドの形をしています。ベッド台の横には、
円盤型の巨大な**のこぎり**が備え付けられており、
アームで上下に動かせるようになっています。

つまり、まず、対象をベッドに仰向けに寝かせ、
そのまま腹部を動かさないように固定します。そして、
スイッチを入れ、円盤型の**のこぎり**を**高速回転**させ、
ゆっくりとアームを下していきます。

そうして、腹部を真上から**切断**していきます。

…。

ある日、この道具で小学生が切断されることになりました。

というのも、その小学生が、
「(据え置き)テレビを見ながら、買い物に行きたい！」
と、わがままなことを言い出して、それに対して、
「**なら、体を上と下に分けてしまえばいいじゃん♪**」
と、提案されたからです。

そうして本当に、体を上下に切断してしまいました。

…。

この話を聞いて、どう思いますでしょうか？
残虐だと感じますでしょうか？

その映像はテレビでも放送されました。
そもそもこれ、何の話だと思いますか？
(1979年に放送された)ドラえもんです。

残虐な話だと思えばそんな風に物語は展開され、
愉快な話だと思えばそんな風に物語は展開されます。

私たちの人生も同様です。

(続)

//=====//

●思い込みが良くも悪くも明日を作る②

他人をすぐに**非難**する人は、
自分も他人から非難されていると**錯覚**し、何かあれば
すぐに他人に**敵意を向ける**ようになります。

例えば、ある人が風船を持っていたとします。
普通の人には風船だと思っしょう。
しかし、すぐに人を非難する人は、

**「その中に毒ガスが入っていて、
私を殺そうとしているのかもしれない…」**

と敵意を向けます。

はたまた、ある人がバットを振っていると、普通の人には、
「おお、熱心に練習してるな」と感心するところですが、

しかし、すぐに人を非難する人は、

**「俺を殺す練習をしているのか？
もしそうだとしたら返り討ちにしてやる！
来るなら来い！」**

とやはり**敵意**を向けます。

あなたの身の周りにもそんな人はいませんか？
ちらっと一瞥してきた通りすがりの人にイラついていませんか？

強引に割り込んできた運転手にガン飛ばしていませんか？
些細なことで店員にクレームをつけていませんか？
最近よそよそしくなった妻の行動が気になっていませんか？

「もし〇〇と言われたら、〇〇と言い返してやる！」とか、
「もし〇〇されたら、〇〇して報復してやる！」などと、
身構えていませんか？

常日頃から他人に対して**攻撃的**であるがゆえに、
自分も同じように他人からそうされていると**錯覚**し、
安心できなくなるのです。つまり、
他人に対する敵意によって、自分の幸せが妨げられているのです。

これらはすべて**思い込み**です。
思い込みで人間関係は作られていくものです。
防衛は必要ですが、過剰であってははいけません。

(続)

//=====//

● 思い込みが良くも悪くも明日を作る③

「人類滅亡ってあり得そうですか？ (*'ω' *) 」と聞かれれば、
「いやいや、それはないでしょ！ (´ー´)ノ 」と思うことでしょう。

なぜか？

今までそんなことは起こらなかったからです。

私たちには**「過去を延長して未来を捉える」**という癖があります。
ゆえに、これまで事故が起こらなかった以上、

これからも事故なんて起こらない、と考えてしまうのです。

しかし、人類滅亡も可能性はゼロではありません。

「中性子星に巻き込まれる」とか、

「ロボットが敵になる」とか、

「核戦争が勃発する」などなど、

いくつかシナリオは考えられます。

とは言っても、確かに人類滅亡は、

そうそう起こることではありません。が、これに対して、

戦争や飛行機事故、土砂崩れや 1000 年に 1 度の大地震であれば、

それなりの頻度で発生しています。

昔はそうした未来を占いで予想してきましたが、

今では蓄積された膨大なデータから計算して予想します。

そうして予想の精度は極めて高いものとなりました。

しかしそれでも、実際に事故が起こって初めて、

「危ない！」ということが理解されます。

その度に対策が考えられるわけですが、同様にその度に、

「どうして危険を察知できなかったのか！」という声が上がります。

実は、想像するだけであれば、想像はできています。が、

それを想定して対策を講じるとなると、そうはいきません。

お金がかかるからです。これが税金となると尚更です。

ゆえに、これまで事故が起こっていない以上、

これからも事故は起こらないだろう、と考えるのが無難であり、

無駄なことにお金を使わないようにするためにも、

そうした点への対策は見送られるのが世の常です。

私たちのリスク対策にも「思い込み」が大きく影響しているのです。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)